

令和元年度埼玉県NPO活動サポート事業 (みどりと川の再生)

助成事業

日高の里山再生と森林環境教育

助成団体

特定非営利活動法人けやの森自然塾

事業内容

長年手入れされずに放置された里山を再生し、地域住人の憩いの場にするとともに、自然の豊かさと大切さを伝えるための環境教育を行う。



成果と展開

人の手が入らずに篠や竹が繁茂してしまった雑木林を整備し、光と風の入る林になってきた。動植物との共生を目指し、ゾーニングをしながら、今後も整備の範囲を広げていく。

事業の目的(問題意識・課題・対策等)

課題

雑木林に竹が進入してしまい、景観を損ねるばかりか、日差しを遮ることで雑木が立ち枯れてしまい、近づくことも危険な個所がある。風通しも悪く、生態系の変化にも乏しい状態である。



目的

かつて人間と共存関係にあった里山の機能を取り戻すことで、地域住人の憩いの場としても、県内の子供達の実環境教育の場としても活用する。また、自然体験活動の普及にも寄与する。

1 整備保全

竹の除去と枯れ木、枯れ枝の除去

2 生物多様性保全のための調査

対象地とその周囲の動植物の調査

生息確認種のリストアップ

3 森林環境教育

200人程度の子供達に、保全体験や里山の機能についての解説をおこなう。

事業の成果

1 整備保全（計40日間、のべ104人、のべ5000m²）

- ・枝打ち、枯れ木の伐採をすることで、より安全な環境となった。
- ・竹や外来の草本類を除去することで元来の里山へと近づいた。
- ・整備が進むにつれて、近隣の方たちが安心して散歩に訪れる事ができるようになってきた。



2 生物多様性保全のための調査

- ・対象地とその周辺の動植物の調査を行った。
- ・生息確認種のリストアップと、生息位置のマッピングを行った。
次期以降の保全活動の指標とし、整備の範囲と度合いを決める材料として活用する。



3 森林環境教育（のべ254人の幼児、小学生が参加）

- ・講師を招いて温暖化等の地球環境の変化について学んだ。
- ・竹の伐採、コナラの植樹、シイタケの菌打ち等の保全作業を行った。
- ・除去した竹で食器を作り家庭へと持ち帰った。



今後に向けて

今回整備した土地については、安全面および景観、里山としての機能回復に寄与できたが、その反面、隣接する未整備の土地については、その差が見た目にも大きく、今後範囲を広げて整備を進めていきたい。

そのためには、新たな地権者と協議し、整備の内容や範囲についても調整をしていく必要がある。

今後も整備を続けるにあたり、これまでに取得した資機材を有効活用し、作業の安全を確保しながら、環境教育の場として子供達を迎え入れる環境としても、安全な場所になるよう、保全および整備を続けていきたい。

